



しやまよう第5号

“地域に信頼され 安心を提供できる 社協を目指して”

発行元 社会福祉法人和泊町社会福祉協議会

発行日 平成27年 6月25日

社会福祉協議会では、次の役職員体制の下、「誰もが安心して暮らせるまち“和泊町”」の実現に向けて、住民主体による地域福祉の充実と組織化に全力で取り組んでまいります。

《役員紹介》 H27,06,01 現在

(敬称略)

| 会長 | 竿田 富夫 | 有識者 | 評 議 員 | | | |
|-------|-------|--------|--------|---------|------------------|---------|
| 副会長 | 長田 榮利 | 有識者 | 伊集院周克 | 区長会代表 | 榮 富弘 | 民児協代表 |
| 理事 | 名島 勝一 | 施設代表 | 大屋 富茂 | 区長会代表 | 島田香代子 | 長寿クラブ代表 |
| 理事 | 朝戸 弘文 | 教育委員代表 | 安田 克彦 | 区長会代表 | 村田 行夫 | 障害者団体代表 |
| 理事 | 森 富隆 | 区長会代表 | 太 直孝 | 区長会代表 | 外山 恵美子 | 母子会代表 |
| 理事 | 盛 泰夫 | 有識者 | 竹下 敏也 | 農協代表 | 佐々木よし子 | 保護司会代表 |
| 理事 | 瀬川 光雄 | 行政代表 | 南 好二 | 商工会代表 | 吉峯 実文 | 遺族会代表 |
| 監事 | 上原 清 | 有識者 | 葉棚 美津乃 | 女性団体代表 | 葉棚 文雄 | 行政代表 |
| 監事 | 松下 元文 | 有識者 | 安徳 建二 | NPO代表 | 理事7名、監事2名、評議員15名 | |
| 第三者委員 | 石原 純子 | 民児協代表 | 中屋 吉右 | 福祉行政経験者 | 今井フサ子 | 学識経験者 |

《職員状況》

| 事務局 | 高齢者福祉部門 | 障害福祉部門 | 児童福祉部門 | 合計 |
|-----|---------|--------|--------|-----|
| 9名 | 29名 | 8名 | 35名 | 81名 |

～町民の皆さまのご理解とご協力をお願い致します～

I 平成26年度の主な社協活動（地域福祉活動）の実績について

①相談・支援事業

| 高齢者関係 | 障害者関係 | 児童関係 | その他 | 合計 |
|-------|-------|------|-----|------|
| 70件 | 57件 | 12件 | 6件 | 145件 |

②安心生活基盤構築事業（コーディネーター2名配置） ※新規事業

○支え合いマップ作成支援（19回、延参加人数：160名）

○住民座談会（12回、延参加人数：118名）

○ふれあい・いきいきサロン立上・運営支援（25回、延参加人数：440名）

○生活支援サポーター講座（21名）、災害ボランティア養成講座（51名）

○総合相談窓口の設置、地域見守りネットワーク連絡会の組織化、実態調査の実施（512件）

③生活福祉資金貸付事業（相談件数：16件、新規貸付件数：1件、延4件）

④ボランティアセンター運営事業

○相談件数：167件、斡旋件数：160件、登録者数：862名

○ボランティアスクール等福祉教育（17回、延参加人数：437名）

⑤くらし安心ネットワーク事業



○在宅福祉アドバイザー（137名）、訪問支援回数（10262回）

○支え合い会議（20回、延156名）、研修会（2回、延149名）

⑥シニアはつらつ（脳トレ）教室開催事業

○教室開催数：51回（延利用者数：1126名）、シニアはつらつ倶楽部（参加数：99名）

○学習サポーター派遣（延参加者数：288名）

⑦生活支援サービス「あぐネット」事業

○生活支援サポーター会員：29名、利用会員：38名

○活動件数：145件、派遣人数：248名

○懇談会（6回、延参加人数：72名）、あぐネット通信6回発行

⑧福祉サービス利用支援事業（契約件数35件）※判断能力に不安のある方の日常生活を支援する事業です。

| 相談支援 | 金銭管理 | 各種手続き | 書類等預り | 合計 |
|------|------|-------|-------|-------|
| 985件 | 961件 | 52件 | 31件 | 2029件 |

⑨赤い羽根共同募金事業（募金総額：1,525,976円）

⑩赤十字活動（社資総額：990,000円）

災害救援物資・災害見舞金配布：0件、赤十字奉仕団研修会（参加人数：50名）

⑪福祉機器リサイクル（貸出）事業（貸付件数：15件）

⑫祭壇貸付事業（貸付件数：9件）・補装具相談会（3回、相談件数：18件）

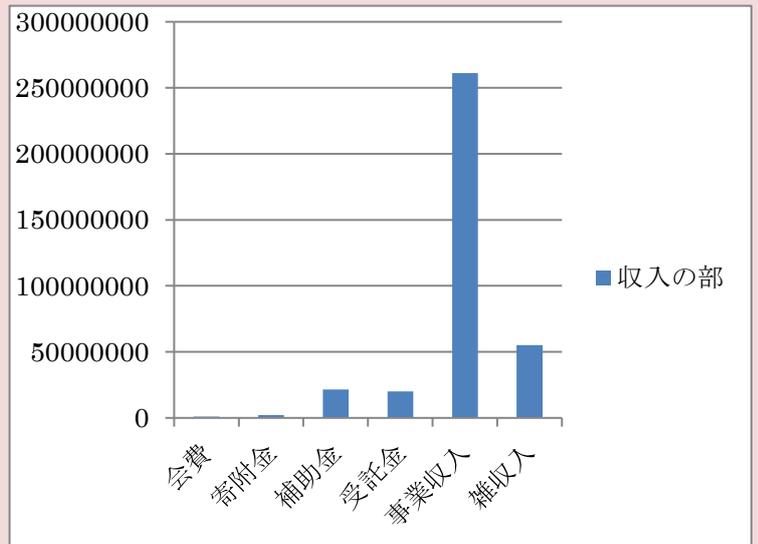
⑬スクールソーシャルワーカー活用事業（2名配置、活動件数：70件）

⑭福祉団体支援事業（障害者団体・母子寡婦福祉会・遺族会の事務局）

Ⅱ 平成26年度収支決算の状況（特別会計を含む。）

〔収入合計：361,109,564円〕

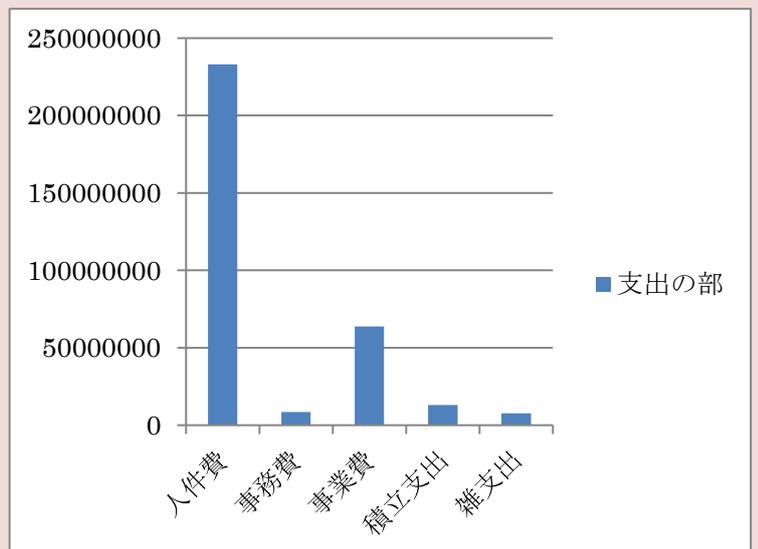
- ① 会費 1,064,100円
(2,652世帯)
- ② 寄附金 2,108,200円
- ③ 補助金 21,542,700円
- ④ 受託金 20,036,980円
- ⑤ 事業収入 261,223,797円
- ⑥ 雑収入 55,133,787円



新規事業の受託や障害福祉サービス利用者の増加、積立預金の取崩しにより、昨年比+10%。しかし、制度改正に伴う収入減が予想され、事業の抜本的見直しが求められる。

〔支出合計：326,256,313円〕

- ① 人件費 233,062,214円
- ② 事務費 8,521,539円
- ③ 事業費 63,876,498円
- ④ 積立支出 13,044,094円
- ⑤ 雑支出 7,751,968円



多様化する福祉ニーズに対応していくため、各分野における専門職の育成と新たな事業の拡充、老朽化する施設設備等の改善が課題となるため、適正な職員配置と経費削減に積極的に取り組み、安定した財源の確保を図る。

〔くらし安心ネットワーク事業〕



“地域見守りネットワーク連絡会の様子”

本町では、地区民生委員を中心に、委嘱を受けた在宅福祉アドバイザーが、独居高齢者や高齢者世帯、障害者世帯等の見守りが必要な世帯を選定し、声掛けによる安否確認や各種情報の提供、不安解消等を目的に、訪問活動を行っています。

また、各字で支え合い会議を開催し、課題検討や情報の共有化を図り、より良い活動の推進に努めています。今年1月には、訪問業務を行う民間事業所のご協力で、地域見守りネットワーク連絡会を組織し抜け漏れのない活動を展開しています。

〔Let'sスポーツごみ拾い〕

地域ぐるみで環境美化・保全に取り組む機運を高めることを目的に、笠石海浜公園を中心にして、Let'sスポーツごみ拾いを開催いたしました。



快晴の下、15チーム75名が参加し、制限時間内に収集したゴミの重量で順位を決するチーム対抗の新しいスポーツで、選手

宣誓や準備運動、作戦会議後、笠石海岸やジョギング大会のコース周辺など思い思いの場所に分かれてスタートしました。1時間の競技で、なんと約500キロのゴミが集められ、主催者も参加者もゴミの多さにビックリ。普段気がつかない道路脇や海岸も予想以上にゴミがあり、悪戦苦闘した選手達も終了後は、充実感と爽快感で、笑顔満開！



〔生活支援サービス“あぐネット”〕

日常生活上のちょっとした困りごとを解決する住民主体の取り組みとして発足した「あぐネット」も今年で3年目を迎えます。これまでに、332件の依頼に対し、545名のサポーターを派遣し、家や庭の掃除、買物支援、衣類整理、台風後の後片づけ等の支援を利用者との交流を大切に実施してきました。また、サポーター間の交流と情報交換を目的とした懇談会や人材育成のための講座の開催、会員通信の発行も行っています。できることをできる時に行えるボランティア活動です。

“住みよい地域は あなたの一步から”



〔災害ボランティア養成講座〕



普段から災害や災害ボランティア活動に対する関心高め、自主防災対策の充実を図るとともに災害発生時にボランティアとして活躍できる人材の養成を目的に開催いたしました。講座では、災害ボランティアの役割や本町の防災対策の現状についての講義や非常炊き出し訓練、クロスロード（岐路、分かれ道のことで、災害時の対応を考えるカードを利用した手軽なグループゲーム）が行われ、参加した約50名は、災害への対応について楽しくかつ真剣に学び、理解を深めていました。

社協のひろば

〔子ども療育センターのびのび〕

保育の現場から「一対一の関わりが必要」との声から町の支援を受け、平成13年に実施された心身障害児通園事業として、「ひとりひとりを大切に、のびのびと育てほしい」という思いから「のびのび」と命名し、スタートしました。

現在、未就学児13名、就学児11名が通所し、それぞれの児童の特性に応じた生活スキルの向上に向けた取り組みや個別課題等の療育活動、児童が通う保育所や学校等における集団生活への適応に関する訪問支援、家庭訪問による相談援助等を通して、家庭生活における支援を行っています。



〔福祉相撲号 贈呈〕

NHKとNHK厚生文化事業団が主催するNHK福祉大相撲では、その収益金から、全国の福祉施設や団体に対し、車両の贈呈（過去285台）を行っております。48回目を迎える今回は、全国で6か所、九州では1か所に贈呈が行われ、その1か所に晴れて本会が決定いたしました。

本会では、高齢者や障害者等の送迎や訪問支援等に効率的に運用し、思いやりの心がある住みよいまちづくりに活かしたいと考えています。

〔通所介護事業所〕



平成8年に町内2か所目の老人デイサービスセンターとして開設され、現在は、要介護者45名に加え、重度障害者6名（生活介護事業）が利用され、個別支援計画に基づいた健康チェック、入浴、給食、排せつ、機能訓練、レクリエーションや年間行事など、多様なメニューの提供により、楽しい雰囲気の中で、心身の機能維持を図る取り組みを行っています。又、音読や計算等の教材を活用した学習療法を導入し、脳の健康維持と認知症予防を推進しています。



お知らせ

相談は無料です。

平成27年4月から生活困窮者への支援制度がスタートしました。

社会福祉協議会では、相談窓口を設置し、生活の困りごとや不安を抱えている方などからの相談に応じるとともに、自立支援計画の作成や関係機関との連携による様々な支援を行います。

○具体的な相談内容例

- 生活に困っている
- 仕事が見つからない
- 家賃を払えない
- 病気で働けない
- 家族のことで悩んでいる
- 社会に出るのが怖い
- 将来が不安 など

お問い合わせは、社協事務局（92-2299）までお気軽にご連絡下さい！